

平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

4 本校の実施状況

第2学年	国語	人	社会	人	数学	人
	理科	人	英語	人		

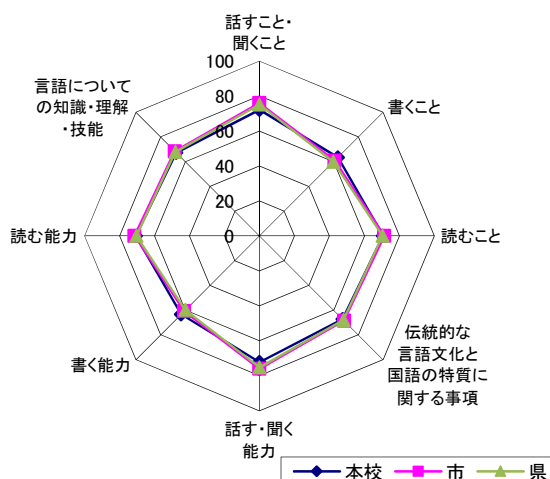
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	72.2	76.0	75.2
	書くこと	63.4	60.9	59.9
	読むこと	70.7	71.4	70.4
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	67.3	68.5	68.0
観点	話す・聞く能力	72.2	76.0	75.2
	書く能力	63.4	60.9	59.9
	読む能力	70.7	71.4	70.4
	言語についての知識・理解・技能	67.3	68.5	68.0



★指導の工夫と改善

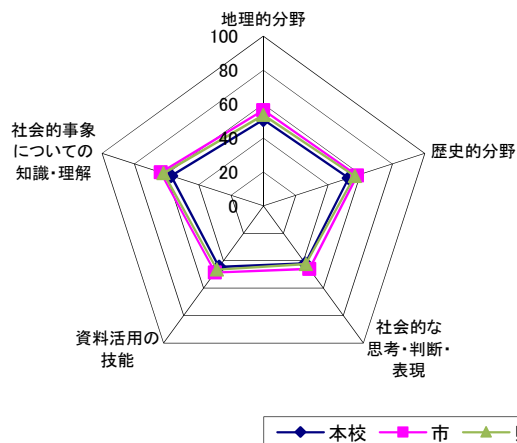
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○記述式の問題の正答率は県と比べ3.2ポイント、市と比べ1.1ポイント上回っている。 ●正答率は市と比べ3.8ポイント低い。「分かりやすく伝えるために話の構成を考える」問題の正答率は、市と比べて9.6ポイント低く、得点層でも上位と下位の差が大きい。	・日常的な会話の中でも、相手に分かりやすく伝えるための工夫をするという、基本的な言語活動をしていき、下位層の底上げを図る。更に構成を考えながら自分の考えをまとめるという活動を授業で意識的に取り入れていく。
書くこと	○正答率は市と比べ2.5ポイント、県と比べ3.5ポイント上回っている。また記述式の問題の無解答率が市と比べ11.7ポイント下回っている。 ●記述式の問題では得点層の上位と下位の差が大きい。	・「書くこと」への抵抗は少ないようなので、更に構成を意識したものを書けるように指導を継続していく。また友達をよく書けた文章を参考にさせたり型を示したりして学習させ、下位層の底上げを図る。
読むこと	○記述式の問題の正答率は県と比べ3.2ポイント、市と比べ1.1ポイント上回っている。 ●正答率は県と比べ0.3ポイント上回っているが、市と比べると0.7ポイント下回っている。「描写や心情を捉える」「自分の考えを持つ」問題では得点層の上位と下位の差が大きい。また接続語を選択する問題の正答率は、市と比べ1.8ポイント下回っている。	・授業場面においては、場面の移り変わりに注意しながら人物の心情や情景描写などをみていく指導を、今後も継続していく。 ・文章の構成や展開を捉えたり、接続語やキーワードなどに注意させながら、文章全体の要旨を捉えさせたりする学習を、今後も継続していく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○漢字の読み書きの問題では市と比べ6.2ポイント上回るものや正答率100ポイントものもある。歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す問題では市と比べ3.9ポイント上回り無解答率も0ポイントである。 ●正答率は市と比べ1.2ポイント低い。漢字の書き問題では市と比べ14.6ポイント下回るものもある。	・漢字の読み書きは、今後も反復練習を行い更なる定着を図る。また、小学校の内容も復習させる。 ・古典の学習に関しては、親しみを感じさせるために、音読を通し言葉のリズムや響きを味わせていく。また苦手意識が生じない手立てとして、古典の基礎知識を資料を用いて解説し、古典の世界がイメージしやすいようにさせていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理的分野	50.7	56.4	53.5
	歴史的分野	52.8	58.0	56.6
	社会的な思考・判断・表現	42.0	46.1	42.5
	資料活用 of 技能	44.5	48.6	46.5
	社会的な事象についての知識・理解	57.2	63.6	61.9



★指導の工夫と改善

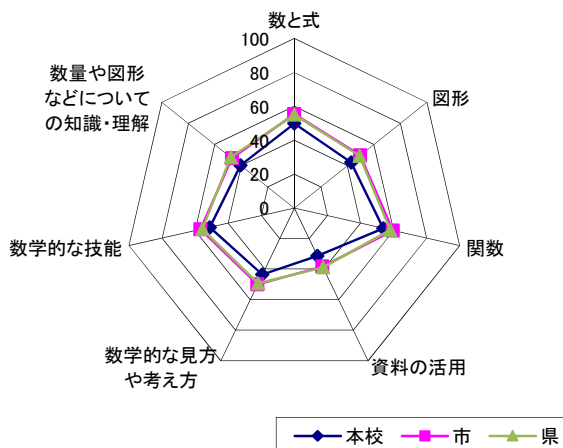
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	平成29年4月18日(火)	今後の指導の重点
地理的分野	<p>○大陸や州の名称、緯度・経度を用いた位置の表現については、ほぼ県平均並みである。</p> <p>○北アメリカ州の地形の断面図については、県や市の正答率を上回っている。</p> <p>●イスラム教の分布とその特色については、県や市の正答率と比べると10ポイント以上下回っている。</p> <p>●南アメリカ州の雨温図の読み取りについては、市や県の正答率と比べると10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・地理的分野の学習では毎時間地図帳を用意させ、名称と位置を確認することを今後も続けていく。</p> <p>・世界の主な宗教については、「世界の諸地域」の学習でも適宜取り上げ、理解を深められるようにしていく。</p> <p>・雨温図の読み取りについては、「世界の諸地域」や「日本の諸地域」の学習においても、ポイントを示しながら繰り返し行うことでその技能を身に付けさせたい。</p>
歴史的分野	<p>○中世の外交関係を述べた文章を整理した図を読み取ることについては、県・市の正答率を上回っている。</p> <p>○天平文化が栄えたころの天皇を問う設問では、県・市の正答率を上回っている。</p> <p>●国風文化の特徴については、県や市の正答率と比べると10ポイント以上下回っている。</p> <p>●防人を問う設問では、県や市の正答率と比べると10ポイント以上下回っている。</p>	<p>・文化史については理解が不十分のため、混同している部分がある。その特徴と内容をきちんと整理させる。</p> <p>・各時代の特色をとらえる学習で内容の整理を行い、定着度を高める。</p> <p>・中世に比べ、原始・古代の内容の定着度が低い傾向がある。新たな時代の学習に入る際には、前の時代の振り返りを行うなどして、つながりを意識させたい。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	49.9	55.4	55.0
	図形	43.0	49.8	49.2
	関数	53.8	59.6	58.0
	資料の活用	31.3	38.3	38.9
観点	数学的な見方や考え方	43.5	50.0	49.3
	数学的な技能	51.1	56.7	55.7
	数量や図形などについての知識・理解	40.5	47.0	47.9



★指導の工夫と改善

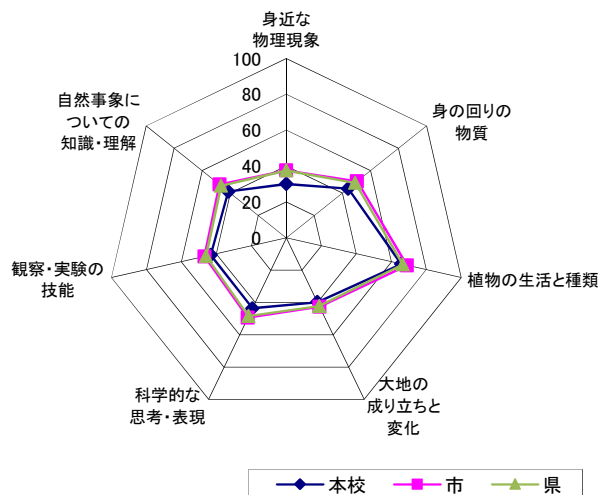
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○「与えられた式に対応する基石の囲み方を選ぶ」問題は市や県に比べて正答率が6ポイント以上高い。 ●「自然数を選ぶ」問題、「一次式の計算(一次式と数の除法,分配法則)」の問題が市や県と比べて15ポイント以上低い。	自然数などの数の名称が出てきたときに確認をする。計算については繰り返し行う。四則計算では符号ミスによる誤答が多かったので、-がついた間違いやすい四則演算を小テストを利用して指導していく。
図形	○「直方体にかけたひもを展開図に書き入れる」問題「 $\triangle ABP = 1/2 \triangle ABC$ となる点Pを作図する」問題は県より正答率が1ポイント以上高い。 ●「おうぎ形の面積を求める」問題は県や市より9.5ポイント以上低い。「円柱の展開図で、側面の横の長さを求める」問題、「底面が合同で高さが同じ柱体と錐体の体積を比較する」は県や市より12ポイント以上低い。	・おうぎ形の面積を求める公式,円柱の表面積を求める手順,柱体,錐体の体積の求め方が身につけていないので,2年生の図形単元の導入時に復習して定着させる。 ・上位層と下位層の差が大きいため,習熟度別学習を効果的に活用していく。
関数	○「与えられた座標に合う点の位置を選ぶ」問題は県や市に比べて正答率が4.9ポイント高い。 ●「面積が一定の長方形の縦と横の長さの関係を式に表す」問題、「12分後の水の深さの差を表す矢印を選ぶ」問題が市や県に比べて10ポイント低い。文章から式に表したり,文章が表しているものをグラフから読み取ることができていない。	・文章が意味していることを表,式,グラフで表すとどうなるかということや逆に表,式,グラフから何が言えるのかということを通し1次関数を通して身につける。言語活動を増やし,表,式,グラフから言葉にする時間を増やす。
資料の活用	●「度数分布表から中央値が含まれる階級を答える」問題が県や市に比べて正答率が12ポイント以上低い。	・資料の活用における階級値,相対度数,最頻値,中央値などの用語の復習を確率の単元前に授業で取り入れ,基礎基本の定着を図っていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	身近な物理現象	30.0	37.6	37.5
	身の回りの物質	44.0	50.5	49.1
	植物の生活と種類	65.7	69.0	66.6
	大地の成り立ちと変化	39.8	42.7	42.2
観点	科学的な思考・表現	43.6	49.4	48.5
	観察・実験の技能	43.2	46.8	45.9
	自然事象についての知識・理解	41.3	47.6	46.5



★指導の工夫と改善

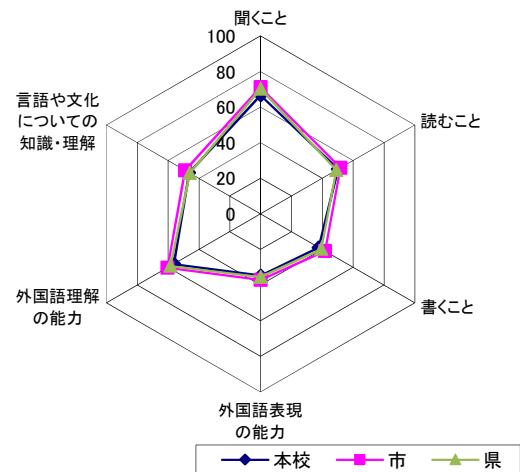
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
身近な物理現象	●水から空気中への光の進み方やスクリーンに映る像について、市や県の正答率と比べると10ポイント以上下回っている。	・実験を行う時には、結果を考えさせてから実験を行い、結果を確認しまとめていく。また、光の通りの作図を行い、知識を深めていく。
身の回りの物質	○メスシリンダーの操作方に県や市よりも正答率は上回っている。 ●状態変化によって質量は変化しないことについて、市や県の正答率と比べると15ポイント以上下回っている。また、計算問題については無回答も多い。	・計算問題での無回答率が多いので、基本的な計算問題を繰り返し行う。また、授業の中で考えさせ、発表の内容を多く取り入れる。器具の使い方については、このまま丁寧な説明を継続していく。
植物の生活と種類	○光合成の実験の結果を基に比較し、説明する内容については、県よりの1ポイント以上、また、シダ植物の増やし方についても県より2ポイント以上正答率が上回っている。 ●光合成には何が必要かを調べる実験の内容が市や県の正答率と比べ約10ポイント下回っている。	・実験を行う際に、何を調べる実験なのか、注意点や比較内容を明確にして行う。また、基礎的な知識の理解をさらに深めていく。
大地の成り立ちと変化	○花崗岩のできる場所や、示準化石に用いられる条件については、市や県の正答率を比べると少しだけ上回っている。 ●花崗岩のできる方を推測させる内容では、市と比較すると5ポイント下回っている。	・火成岩のできる場所については、1年生で学習した結晶のでき方と連動させながら指導していく。また、基礎的な知識の理解を深めていく。

宇都宮市立上河内中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	66.7	71.1	70.2
	読むこと	50.2	51.8	49.1
	書くこと	37.7	41.8	39.4
観点	外国語表現の能力	34.7	37.1	35.5
	外国語理解の能力	56.3	60.4	58.5
	言語や文化についての知識・理解	46.4	49.0	46.0



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>●正答率は市と比べ4.4ポイント低い。「疑問文の聞き取り」では正答率が県や市と比べて9ポイント以上低い。WhereやWhenなどの疑問詞を含む疑問文を聞いて、応答することが苦手である。</p> <p>○「スピーチを聞いて、博物館で働いている人を聞きとる」設問では、県を5.3ポイント、市を3.4ポイント上回った。</p>	<p>○授業の中で英語によるやりとりを増やし、疑問詞を含む疑問文を多く取り入れた質問に対する基本的なルールを定着させる。</p> <p>●教科書の他にも副教材のリスニング問題を活用し、英語に触れる機会をたくさん与えるとともに、活動を工夫していく。</p>
読むこと	<p>●正答率は市と比べ1.6ポイント低い。特に「長文の読み取り」において、「対話文を読み、thereの指すものを読み取る」設問では、市の平均より6.5ポイント下回った。大意の把握や指示語を問われている部分を全体の中から見つけ出すといった読み取りの力が身に付いていないためと考えられる。</p> <p>○「案内の表からゲストと写真が取れる時間を読み取る」設問では、正答率が県の平均より6.2ポイント上回った。</p>	<p>○文の大意を把握する力や要約する力を身に付けるために、文全体の大まかな把握をする質問や内容の正誤を問う問題などを多く取り入れる。</p> <p>●英文を読む際には、毎回指示語が何を指しているのか確認を行う。</p> <p>○「文法の理解」で上位層と下位層の差が大きいので、文法事項を定着させるために、繰り返し問題演習を実施する。</p>
書くこと	<p>●3領域の中で正答率が一番低く、市と比べ3.9ポイント低い。特に「テーマに基づく英作文」での「第1文に好きな季節についての英文を書く」設問では県の平均を15.2ポイント、市の平均を16.0ポイント下回った。また、「場面や条件に応じた英作文」での「対話文に当てはまる現在進行形の疑問文を書く」設問では市の平均を7.2ポイント下回った。</p> <p>○「How many名詞～?を理解し、正しい語順で書く」では5.8ポイント、「一般動詞の否定文を理解し、正しい語順で書く」設問では、6.4ポイント県の平均を上回った。</p>	<p>○表現したい内容の英文を書けるようになるには、まずそれを言えるようにすることが必要なので、授業でたくさんの英語を聞き、十分に口頭で練習した後、書く活動を取り入れる。</p> <p>●内容につながりのある英文を書くために、言語材料の使い方やつなぎ言葉を意識した文を書く指導を行っていく。</p>

宇都宮市立上河内中学校 第2学年 生徒質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○学びの基礎力の視点についての質問、「家の人と将来のことについてはなすことがある」の肯定的回答77.4%、「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の肯定的回答78.6%、「先生は学習のことについてほめてくれる」の肯定的回答84.5%は、県および市を大きく上回った。特に、「家の人と将来のことについてはなすことがある」は県より11.5ポイント、「先生は学習のことについてほめてくれる」は県より11.9ポイント高い。家庭での対話や家庭や学校での承認感があり、安定した気持ちで生活が送れている生徒が多いと考えられる。

●社会的実践力の視点についての質問「自分も持っている能力を十分に発揮したい」の肯定的回答82.1%は、市および県の回答より、7ポイント以上低い。家庭学習力の視点についての質問「家で、学校や塾の決められた宿題の他に自分で勉強している」の肯定的回答53.6%も県より3.6ポイント、市より7.8ポイント低い。向上心をもって努力できるようにする手立てについて考える。

○学級力の視点についての質問、「クラスは発言しやすい雰囲気がある」の肯定的回答は89.3%で、県より13.0ポイント、市より14.7ポイント上回っている。実施日が4月で学級編成後まもなくであったが、本校は小学校が単学級の3校から集まるため、知り合いの生徒が多く発言しやすい雰囲気があると回答した生徒が多いと考えられる。

●学級力の視点についての質問、「授業では、自分の考えを発表する機会が与えられる」の肯定的回答81.0%は、県および市より下回っており、仲間とともに意見を言い合いながら学びを追究する活動や、対話的な学びについて実践を積み上げていく必要がある。

○学級力の視点についての質問、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」の肯定的回答は78.6%で、県より14.9ポイント、市より18.5ポイント上回った。「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて、ねらい)とまとめを書いている」の肯定的回答は、91.7%で、県余地8.0ポイント、市より13.2ポイント上回った。一人一授業、校内授業公開などを中心として、毎時間、授業の観点を確認しながら取り組んでいる成果が表れている。

学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・表現力を高め、自分の考えを伝え、学び合うことのできる生徒を育成する。	話し合い活動や、グループ活動、発表の機会を意識的に授業中の必要な場面に応じて取り入れる。	クラスは発言しやすい雰囲気であると回答した生徒が89.3%いる一方、自分の考えや発表する機会が与えられていると回答した生徒は81.0%である。単元にもよるが、仲間との対話的な学びや発表の場を設ける。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
目標を掲げ、向上心をもって努力する生徒が少ない。	昨年に引き続き、基礎的・基本的内容の定着を図ること、自信をもたせ、意欲を高めさせる。	・将来への目標を立てたり、将来の夢を考えるなど、学級活動やキャリア教育と絡めながら、学習への意欲につなげることで、家庭学習の習慣化および質の向上を図らせる。 ・達成目標を小さく設定し、確実に達成できるようにする。 ・基礎基本の定着のために、ドリル学習を根気強く行う。 ・保護者会や各種たより等を通して、保護者への啓発活動を行う。